

7スピリット「火災被害」緊急募金

【UNSAM】 12月6日（金） 17:00～取手駅西口、

【地球市民活動部】 6日昼休 ご協力をお願いします

7スピリット来日中の11月3日（日）、セブ市のスラム地区パリアンで大規模な火災がありました。80～100 世帯（1225名）がひしめく避難所を7S 田中代表が訪れました。7S の児童10名の家族が避難所に身を寄せています。水・食料が不足し、衛生不足から感染症の蔓延が心配されます。駅前での募金呼びかけ活動の参加や、募金にご協力をお願いします。



高校生ネットワーク

UNSAM

（左）焼失したパリアン地区

（右）避難所（提供：茨城大・光井沙織さん）

フィリピン・セブ島の楽団「キッズ・オーケストラ」が来日し1日、取手市新町の取手ウェルネスプラザで公演した。貧困地域で暮らす8～20歳の約50人による息の合った演奏に、約250人の観客から大きな拍手がわき起こった。

楽団は、トランペットやサックス、バイオリンなどのパートで構成され、軽快なポップスをはじめ12曲を披露した。

テナーサックスを演奏した高校生のダリー・ホルキヤドゥさん（17）は「毎日練習してきた。このような機会を与えていただき、私たちの夢をかなえてくれてありがとうございました」と英語で観客にあいさつした。

NPO法人「セブ

比の子ども楽団 取手で演奏会
観客から大きな拍手
ポップスなど12曲披露

（毎日新聞 2019.11.3）

7S 取手公演募金 147,955 円

でした（駅前59,582円、公演会場88,373円）

ご協力ありがとうございました！

UNSAM 一同



熱演するキッズ・オーケストラ＝取手市新町で

「スピリット」（東京）が主催。取手公演は県立取手一高などの高校生がボランティアで運営に携わった。

【安味伸一】

2019. 11. 9

育った環境のハンディを乗り越えている。

「夢はかなうことも、子供たちに学んでほしい」（セブスピリット）。取手一高ではセブの子が、英語で同校の生徒と趣味や学校生活について語り合う場面もあった。バレーボールやサッカーに熱中しているという子は、将来スポーツで活躍する自分を描いているようだった。

「リゾット地」として知られるセブで、高級ホテルが並ぶ区域と貧困地域は対照的だ。フィリピンではマニラ、ダバオなどの都市にも貧しい人たちが暮らす一帯がある。東西陣営を隔ていた、マルリンの壁の崩壊からきょうで30年になるが、グローバル化の波に乗った者を取り残された者との分断は深まっているように見える。

「日本から中古楽器の寄贈を受け、現地に演奏を習う場を設けているのはNPO法人のセブスピリット（東京・豊島）。路上で過していたスラムの子が、毎日、練習にのめり込むようになった。」「どうせ何をやってもうまくいかなかったと思っていた子も、徐々に自信をつけていく」。田中宏明理事長は音楽の力に驚く。

春秋

8歳から20歳までの総勢48人がオーケストラを組み、「YMCA」や映画「アラジン」のテーマ曲を体育館いっぱいに響かせた。フィリピン中部セブ市の貧困地域から先週来日した子供たちだ。5年前から交流のある茨城県立取手一高で、日々の練習成果を披露した。